

CASA ERI

主要用途/専用住宅 設計/YSLA Architects
 木造在来工法+べた基礎、木 階数/地上2階 地下0階
 建築面積/52.91㎡ 延床面積/76.29㎡ 最高高さ/6.90m

1 自然と共生し既存住宅の住環境に配慮した配置計画



底をなるべく広く採すこと、既存の和室への日照やリビングへの通風などの住環境を維持できるように住宅のボリュームを工夫した。またモルタル仕上げの外壁、無垢杉のウッドデッキ、既存敷地内に鎮座していた崑崙石、伝統的な庭のような碎石敷きなど自然の素材を主体にできた住宅である。



既存の大きな崑崙石を崑崙石とし、テラスの一角を三角形に切り欠いて気軽に家に入出入りできるようにデザインした。また既存の庭を尊重し碎石敷きとし、二つの家が一体となるようにした。



コンセプト・ドローイング。ご近所の通り庭と公園の緑の空間を敷地に呼び込み既存の環境と共生する住宅を実現した。

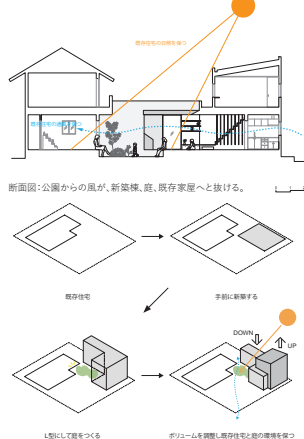
2 自然通風・自然採光を最大限活かした室内環境



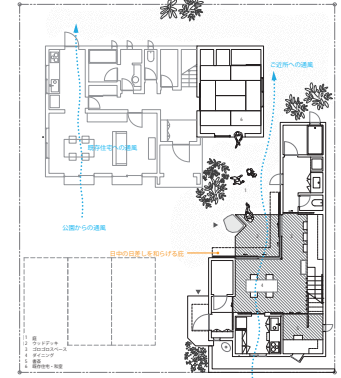
ダイニング側からゴロゴロベースとテラスを見る。内部のオーク材フローリングと外部の杉材ウッドデッキの中と木目、色を統一した。既存家屋に向かうように45度斜め貼りにし、内外の空間が連続する。自然採光・通風が良好な環境で、子どもたちは個室に閉じこもることなく、家族皆で勉強や遊び、食事、昼寝の時間をともにできる。



リビングの代わりに「ゴロゴロベース」と呼ぶ空間を設け、子どもたちが机で勉強している隙を家族が通り、家族間のコミュニケーションが自然とめまれる場となる。北面に大きく開かれたフルハイトの窓から一日中柔らかな光が差し込む。一家の団員の空間は一日中明るく、また良好な通風が実現されている。



断面図：公園からの風が、新築棟、庭、既存家屋へと抜ける。
 既存住宅 手前へ新築する
 L型にして窓をつくる ポリュームを調整し既存住宅との環境を保つ



1階配置平面図：平面図においても窓の位置などに丁寧に検討し、公園からの通風や日差しを和らげると、環境の視点からの工夫を加えた。

3 資源循環と大地震に備えた長寿命住宅への挑戦



ダンパー：書斎隔断部から免震の長さを確認できる。 各所に設置されたダンパー
 木材：防菌処理した3m長のカラマツ材を打ち込む。

4 数奇屋建築の伝統への参加：住みやすい住環境のための意匠



階段手すり：研削・ツヤなし塗装を施した真鍮を巻き付けた。夜も光を反射し2階へと誘われる。
 玄関窓：下駄箱を通し窓のように使える意匠。日常使いのものを飾ることができる。
 書斎窓：斜めに障子で隠ることで、プライバシーを確保しながら前面にある公園を眺めることができる。



五連のふすまはランダムに期間できる。ふすまの動きを日常的に変化する風景として楽しむことができる。また、黒・ふすま、低く設けられた窓などは伝統的な和の要素のこしつづも、色彩は意匠表現は現代的な抽象性・敢奪心のあるデザインをしている。加えて、鴨居、カーテンレールも長押しと一体化し、ミニマルに納めている。